

室蘭工業大学-学報

NO.675



北海道新聞に全面広告「疑え。世界を、ひっくり返せ。」を掲載
(17ページに関連記事あり)

2026年 1 月号

目 次

◇ 若手研究者海外派遣事業報告 ◇

ひと文化系領域 教授 曲 明	1
----------------	---

◇ トピックス ◇

「楽しく体験バスツアー」を開催	3
ビジネスEXPO「第39回北海道技術・ビジネス交流会」に出展	4
室蘭市立白蘭学園の6年生が本学を訪問	5
室蘭市立蘭北小学校の3年生が本学を訪問	6
本学事務職員が滋賀大学主催の「DXセミナー」にて発表	7
本学事務職員が名古屋工業大学主催のDX講演「生成AIとともに進める大学DX」に参加	8
「YELL -MUROKOU DAI-Joshi Real Life-」が大学広報メディアアワード2025動画コンテンツ部門において銅賞を受賞	9
むろらんゼロカーボンフェスタ2025に出展	10
「デジタル・キャンパス推進アンバサダー認定式」および「キックオフワークショップ」を開催	12
Microsoft 365 Copilot Cupに本学職員が出場	13
岸徳光特任教授が発表した論文がBest Paper Awardを受賞	14
令和7年度大学における自殺対策推進のための教職員研修会「学生こころのサポートについて」を開催	15
鹿屋体育大学事務DX勉強会で本学職員が発表	16
北海道新聞に全面広告「疑え。世界を、ひっくり返せ。」を掲載	17
令和7年度 電気・情報関係学会北海道支部連合大会において若手優秀論文発表賞を本学学生が受賞	19
GOOD ACTION シェアリング2025を開催	20
THE学際科学ランキング2026に道内の大学で唯一ランクイン	23
泉佑太准教授が北海道科学技術奨励賞を受賞	24

◇ 情報・資料 ◇

MONOづくりみらい共創機構「プレ共同研究」(5回目)の採択	25
--------------------------------	----

◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ	26
受託研究等の受入れ	27
奨学寄附金の受入れ	28

◇ 人 事 ◇

人事異動	29
------	----

◇ 会 議 ◇

学内各種委員会等の開催	30
-------------	----

◇ 日 誌 ◇

学内行事・学外行事	31
-----------	----

◇ 人物図鑑 ◇

室蘭工業大学人物図鑑 part.39～40	32
-----------------------	----

若手研究者海外派遣事業報告

若手研究者海外派遣事業 報告

ひと文化系領域 教授 曲 明

2023年8月から2024年4月まで、室蘭工業大学の若手研究者海外派遣事業の支援を受け、イギリスのロンドン大学で客員研究員として研究活動を行った。研究を通じて視野が大いに広がり、特に自分の専門である教育学について新たな知見を得ることができた。室蘭工業大学および周囲の先生方には、心より深く感謝している。研究の進め方としては、主に指導教員の授業に参加し、週一回、研究に関するディスカッションを行ってきた。また、ロンドン大学内外で開催されるセミナーや研究会に積極的に参加した。さらに、イギリスで開催された国際学会で計3回の研究発表を行い、研究を進展させた。

研究概要

二つのテーマを中心に研究を行った。1. 学生の主体性を育てる授業とはどのようなものか。2. 持続可能な国際教育としてのオンライン国際協働授業に関する研究である。学生の主体性を育成する授業の特徴を明らかにするため、二つの研究を実施した。一つ目の研究では、ケーススタディを用いた授業を録画し、教員と学生の発話量および発話の機能を分析することで、両者のインタラクションの特徴を明らかにした。さらに、学生の主体性を育成するために、教員と学生の発話の機能と量をどのように改善すべきかについて考察した。もう一つの研究は、教員と学生の関係（パートナーシップ）に焦点を当てたものである。この研究では、アクティブ・ラーニングの一環として、学生が試験問題を作成する活動を授業に取り入れ、その成果を「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲・態度」の観点から評価した。学生は試験問題の作成を通じて授業に能動的に関与し、主体的な学修能力の向上が期待できることが示された。

2. 持続可能な国際教育を目指したオンライン国際協働授業の研究として、筆者は日本語と中国語の二言語によるオンライン国際協働学習プログラムを中国の大学と協力して実施してきた（2022年、中国の「全国大学教育創新コンテスト」で受賞）。今回、ロンドン大学の日本語科教員と協議し、イギリスの大学を加えることで、日本語・中国語・英語の三言語によるオンライン国際交流学習へと発展させることとなった。

研究成果

1. Classroom interaction in a Chinese language class: focusing on teacher talk. Qu Ming. Leaderful Classroom Pedagogy Through a Multidisciplinary Lens: Merging Theory with Practice. December 2023. Springer Nature.UK.
2. Student-Staff Partnership in a Chinese Language Class in Japan-Focusing on a Speaking test Practice. Qu Ming. Journal of Second and Foreign Languages. June 2024. AT Publishing.UK.
3. 《汉语Hyflex课堂的教学分析—以教师与学生的发言行为分析为中心》曲明（室蘭工業大学）、砂岡和子（早稲田大学）中文教学现代化学会学报 第25卷. 2024年12月.



グラスゴー大学で発表した際の写真



ブライトン大学で発表した際の写真

トピックス

「楽しく体験バスツアー」を開催

令和7年11月8日(土)に「楽しく体験バスツアー」を開催し、中学生4名、高校生15名と、そのご家族5名の合計24名が参加しました。参加者は、以下のような多彩なプログラムを体験しました。

- ・ロボットアリーナでのハンズオン教室「3Dプリンタでコンパクトミラーを作る」
- ・研究室見学
 - ①化学生物工学コース 鹿毛研究室「光学顕微鏡と高速度カメラで微生物の動きを解明」
 - ②建築学トラック 谷口研究室「素材を究める・未来をつくる」
- ・合同業界研究会見学
- ・附属図書館見学

- ・昼食懇談会
- ・日鉄テックスエンジ見学
- ・保護者座談会

参加した女子中学生からは、「将来のことを考えるきっかけとなった」などの声がありました。

このイベントは、科学技術振興機構（JST）の「令和7年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の支援（委託費）を受けて実施しているものです。

本学では、このプログラムを通じて、女子中高生の理工系分野に対する興味や関心を高め、理工系進路へ進むことを志すためのさまざまな取り組みを支援してまいります。



ハンズオン教室の様子



谷口研究室訪問



日鉄テックスエンジの女性技術者による説明

ビジネスEXPO「第39回北海道技術・ビジネス交流会」に出展

令和7年11月6日(木)～7日(金)に、北海道最大級のビジネスイベント「ビジネスEXPO 第39回北海道技術・ビジネス交流会」がアクセスサッポロで開催され、本学からは大学院工学研究科 しくみ解明系領域 心理・音響研究グループ 小林洋介准教授の研究について紹介いたしました。

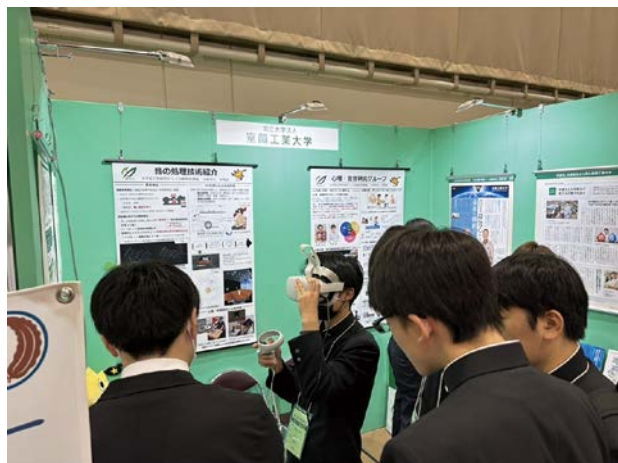
本学の心理・音響研究グループでは、人間の感じ方や心の働きを、工学と心理学の両面から総合的に研究しており、人間の感覚を分析するための心理実験（主観評価）を通して得られた知見は、音響技術や情報デザインの改良に活かされ、人にやさしい技術や環境づくりに役

立てられています。展示ブースでは研究を紹介するポスターの他、VRを用いた立体音響評価や聴覚的な音の特性に基づいた機械の異常音分析のデモを紹介し、訪れた方には実体験を通じて研究を理解していただきました。

本イベントには、2日間で2万人以上が来場し、本学出展ブースにも150名以上の来場者が訪れました。IT関連、建設、機械、金融など、幅広い分野の企業様をはじめ、高校生みなさんも多数来ていただきました。今後も社会共創に取り組む本学の活動を積極的に発信してまいります。



出展ブースの様子



来場者がVRのデモを試している様子

室蘭市立白蘭学園の6年生が本学を訪問

令和7年11月27日(木)に、室蘭市立白蘭学園の6年生20名と、引率の教員2名が「令和7年度室蘭ふるさと学習」の一環で本学を訪れました。

一行は、本学ものづくり基盤センターにおいて、ものづくり技術についての説明を受けた後、教員やセンター

のスタッフの指導のもと、鑄造技術を用いたキーホルダーを作成しました。

室蘭工業大学が誇るものづくりについて、短い時間でしたが、一生懸命勉強されていました。



寺本教授の説明を熱心に聞く様子



作業に集中している様子

室蘭市立蘭北小学校の3年生が本学を訪問

令和7年11月20日(木)に、室蘭市立蘭北小学校の3年生46名と、引率の教員3名が「令和7年度室蘭ふるさと学習」の一環で本学を訪れました。

一行は、本学ものづくり基盤センターにおいて、ものづくり技術についての説明を受けた後、教員やセンターのスタッフの指導のもと、鑄造技術を用いたキーホルダーを作成しました。

室蘭工業大学が誇るものづくりについて、短い時間でしたが、一生懸命勉強されていました。



楠本准教授の説明を熱心に聞く様子

本学事務職員が滋賀大学主催の「DXセミナー」にて発表

令和7年11月5日(水)に滋賀大学彦根キャンパスにて、滋賀大学主催の特別企画「DXセミナー」および意見交換会が開催されました。本学からはデジタル・キャンパス推進室員が参加し、DX推進に関する知見の共有や、両大学における事例紹介を通じて、今後DXを推進することを目的として実施されました。

第1部では、滋賀大学のDX推進チーム担当者から同大学におけるDXの取り組み紹介が行われ、ChatGPTおよびCopilotのデモンストレーションや活用事例について発表がありました。続いて、本学からは齊藤室員および田嶋室員が登壇し、有償版Copilotの活用例をはじめとするDXの取組や、生成AIと協働するための工夫について紹介しました。発表後には質疑応答の時間が設けら

れ、対面会場の参加者に加え、オンライン参加者からも、生成AIの具体的な活用方法や導入の進め方、実務における技術的な工夫など、多岐にわたる質問が寄せられました。これらの質問に対して活発な意見交換が行われ、参加者の関心の高さがうかがえる有意義な時間となりました。

第2部では、関係職員による意見交換が行われ、各大学が抱える課題や今後の展望について活発な意見が交わされました。今回の交流を通じて、両大学のDX推進に向けた理解が深まり、今後の取り組みに活かされる有意義な機会となりました。

本学では、今後も様々な活動を通じて、DXの推進に取り組んでまいります。



発表する齊藤室員



発表する田嶋室員



意見交換の様子

本学事務職員が名古屋工業大学主催のDX講演「生成AIとともに進める大学DX」に参加

令和7年11月6日(木)に名古屋工業大学にて開催されたDX講演「生成AIとともに進める大学DX」において本学デジタル・キャンパス推進室員が参加しました。本イベントは名古屋工業大学が主催し、本学でのDX推進の歩みや生成AIの活用事例の共有等を目的に開催されたものです。

第1部では、はじめに本学デジタル・キャンパス推進室の田嶋室員から「生成AIと一緒に働くコツ」について発表があり、その後、同室の齊藤室員による「室蘭工業大学におけるDXの取組み」をテーマに講演が行われました。本学におけるDX推進の背景や取組み、生成AIの活用事例などを共有し、参加者の関心を集めました。

続く第2部のパネルディスカッションでは、「DX人材って何者？—生成AI時代に問い直す、本当に必要と

される人材と組織—」をテーマに、大学におけるDX推進に必要なスキルや組織の課題について議論が交わされました。本学からは白井室員（外部DXアドバイザー）および齊藤室員が、名古屋工業大学からは齋藤彰一氏（DX推進担当副学長）がパネリストとして登壇し、モデレーターは名古屋工業大学業務変革推進室長 服部氏が務めました。

それぞれのパネリストが示した「DX人材」を象徴するキーワードをもとに、生成AI時代に求められる人材像や、それを育成・活用するための組織の在り方について深い議論が交わされ、大変有意義な時間となりました。

本学では、今後も様々な活動を通じて、DXの推進に取り組んでまいります。



発表する田嶋室員



発表する齊藤室員



パネルディスカッションの様子

「YELL –MUROKODAI-Joshi Real Life–」が 大学広報メディアアワード2025 動画コンテンツ部門において銅賞を受賞

室蘭工業大学が理工系を志願する女子生徒向けに制作し、令和6年8月に公開した「[YELL –MUROKODAI-Joshi Real Life–](#)」が、「[大学広報メディアアワード2025](#)」（主催：日経BPコンサルティング）動画コンテンツ部門において銅賞を受賞しました。

大学広報メディアアワードは、全国の大学が発行・発信する広報メディア（広報誌・デジタルコンテンツ・動画など）を対象に、その品質や創意工夫を評価し、より良い広報コミュニケーションのあり方を提起することを目的に開催されたもので、全国84大学、189作品がエン

トリー、審査結果は令和7年11月28日（金）開催の表彰式において発表されました。

本学では、理工系を志願する女子生徒向けの特設サイトやインタビュー動画を制作し、ロールモデル事例を紹介しています。受賞した「YELL –MUROKODAI-Joshi Real Life–」は、一人の女性学生にスポットを当て、ストーリー性があり、実際のキャンパスライフを気軽に身近に感じさせることを目的に制作しました。

[女子学生特設サイト：YELL –未来を創造する女性へ–](#)



YELL –MUROKODAI-Joshi Real Life–

むろらんゼロカーボンフェスタ2025に出展

令和7年11月30日(日)に生涯学習センターきらん(室蘭市中島町)で開催された「[むろらんゼロカーボンフェスタ2025](#)」(主催:室蘭市)に室蘭工業大学が出展いたしました。

「室工大が進めるゼロカーボンの取り組みを体験しよう!」では、本学の馬渡准教授が研究を進めている温度に応答して見た目が変わる水溶液の実験やたくさんのCO₂の分子模型を作り替える分子変換の体験をおこないました。また、「食用済食用油でカラフルなロウソクを作ろう!」では、炭素の付加価値を高める活動を進めている学生グループのカーボンポジティブ学生ラボメンバーが、使用済食用油の独特な匂いを効率よく除去した油を使ったロウソク作り体験を行いました。参加した室蘭市内在住の小学生からは「油がこんなに綺麗なロウソクに変わり、楽しかった」という感想が寄せられ、資源循環の仕組みを楽しく学べる機会となりました。

本学、市立室蘭水族館、室蘭市環境課が共同で出展し

た「地球環境カードゲーム『マイアース』体験」では、二酸化炭素排出の影響をテーマにしたカードゲームを通じて、地球温暖化や生態系への影響について楽しく学ぶ機会を提供しました。参加者は、ゲームの中で環境問題を疑似体験しながら、温暖化が生物や生活に及ぼす影響を理解し、持続可能な社会づくりの重要性を考えるきっかけとなりました。

また、特別企画として本学の山中教授が「未来のムロランをデザインしよう!みんなで考えるゼロカーボンな暮らし」と題した講演会を行いました。講演は、身近な環境問題を題材に、ゼロカーボン社会の実現に向けた暮らし方や地域の取り組みについてわかりやすく解説しました。

当日の会場来場者は1,500名であり、子供たちはもちろん、そのご家族の方も不思議な体験を楽しんでいました。



分子変換の体験を通じて化学の楽しさを学ぶ小学生たち



カラフルなロウソク作り体験の様子



マイアースで環境問題を学ぶ小学生たち



大人気のムロびよんのガチャを回す子供たち



身近な環境問題をクイズ形式で講演する山中教授。正解した参加者にはムロびよんのハイチューをプレゼントしました。



化学の不思議を体験する小学生たち



室蘭工業大学のブースに登場したムロびよんは子供たちにも大人気

「デジタル・キャンパス推進アンバサダー認定式」および「キックオフワークショップ」を開催

令和7年10月14日(火)と15日(水)の2日間、本学本部棟大会議室において「デジタル・キャンパス推進アンバサダー認定式」および「キックオフワークショップ」を開催しました。

本取り組みは、大学のデジタル・キャンパス化をさらに推進するため、本学職員を対象に「デジタル・キャンパス推進アンバサダー」を募集し、デジタルツールの活用やイベント企画、情報発信などを通じて、学内のDXを盛り上げていくことを目的としています。

認定式後のワークショップでは、外部ファシリテーターとしてEngage Squared株式会社から4名をお招きし、アンバサダーとしてどのような活動を行うか、またTeamsやCopilotなど学内で導入しているツールの活用

方法についてグループディスカッションを行いました。

さらに、アンバサダーの愛称を決める投票も実施され、「デジとも」という名称で今後活動していくこととなりました。

今後、デジともでは、CopilotやTeamsなどのデジタルツールの使い方を学び、学内に広める活動や業務の効率化や新しい働き方のアイデアを考え、実践することにも取り組むなど、職員同士の交流を深めながら、DX推進に関わるさまざまなチャレンジを積極的に行っていく予定です。

本学では、今後も様々な活動を通じて、DXの推進に取り組んでまいります。



認定式集合写真



Best Movement賞を受賞した職員



ワークショップの様子①



ワークショップの様子②

Microsoft 365 Copilot Cupに本学職員が出場

令和7年11月20日(木)、日本マイクロソフト株式会社品川本社にて「Microsoft 365 Copilot Cup」が開催され、本学が発表機関として出場しました。

本大会は、Microsoft 365 Copilotを活用した業務効率化のアイデアや創造的な活用方法を競うコンペティションとなっており、全国から10の企業等が出場、本学は参加チームのうち唯一の教育機関でした。

本学からは「新入生ITヘルプデスクエージェント」をテーマに、エージェント連携や生成AIとTeamsを連

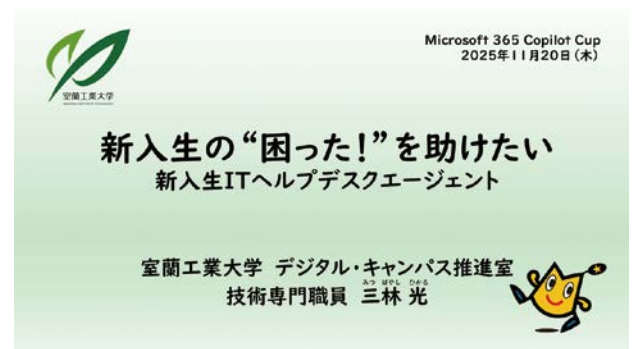
携させた相談対応の効率化モデルを紹介しました。学生の心理的負担軽減やスタッフの業務効率化を目指す取り組みとして、実用性と将来性をアピールしました。

結果は惜しくも入賞には至りませんでしたが、今回の発表を通じて多くの参加者と意見交換を行い、今後の取り組みに活かせる有益な知見を得ることができました。

今後も本学では、生成AIの活用をはじめとしたデジタル・キャンパス化の推進に積極的に取り組んでまいります。



発表する三林室員



当日の発表資料

岸徳光特任教授が発表した論文が Best Paper Award を受賞

令和7年12月1日(月)～4日(木)にオーストラリアのパースで開催された、「第1回インフラ監視・防護に関する国際会議 (The 1st International Conference on Infrastructural Monitoring and Protection (以下: CIMP 1-2025))」にて、岸徳光特任教授が発表した論文がBest Paper Award を受賞しました。

CIMP1-2025には、世界中から構造工学、土木工学、防災分野の専門家が参加し、インフラの安全性・耐久性の向上や構造工学における最新研究成果を共有するための国際会議です。この度、岸特任教授が受賞した「Best Paper Award」は、実務的な有用性や、分野への貢献

度の観点から評価され、インフラ監視・防護分野における最先端研究の論文に贈られる栄誉です。

岸特任教授は白鳥大橋の維持管理への光学センサーとIoT技術を併用したモニタリングシステムの適用性に関する論文を発表しました。

【受賞コメント】

地元の室蘭市を代表するインフラである、白鳥大橋に関する研究論文で受賞することができ、大変光栄に思っております。



記念撮影の様子（右から2番目：岸特任教授）



表彰状

令和7年度大学における自殺対策推進のための教職員研修会「学生のこころのサポートについて」を開催

令和7年11月28日(金)に、大学会館1階多目的ホールにおいて、本学保健管理センター主催による教職員研修会「学生のこころのサポートについて」を開催し、24名が参加しました。

この研修会では、第1部は、保健管理センター精神科医の平井准教授より「大学生の自殺の概況と本学保健管理センターのメンタルヘルス相談について」と題した講

演が行われ、第2部は、室蘭保健所主任保健師の佐藤氏に「学生のこころのサポートについて」と題したご講演をしていただきました。

教職員が、こころをサポートする4ステップ・聴く演習・自身のメンタルヘルスについて学び、活発な質疑が行われ、盛況のうちに終了しました。



講演する本学保健管理センター精神科医 平井准教授



講演する室蘭保健所主任保健師 佐藤氏



研修会の様子

鹿屋体育大学事務DX勉強会で本学職員が発表

令和7年11月17日(月)鹿屋体育大学事務局2階大会議室にて、鹿屋体育大学事務DX勉強会が開催されました。本勉強会は、DX推進を単なる業務効率化だけでなく、「楽しむ」視点で捉え、みんなでDXを楽しむ方法を考えることを目的として企画されたものです。

本学のデジタル・キャンパス推進室からは、三林室員が登壇し、Microsoft 365 Copilotの導入事例や、生成AIを業務に取り入れる工夫を紹介しました。発表では、Copilotを活用した業務改善や採用面接練習支援など、

具体的なAI活用事例を解説しました。

講演後のパネルディスカッションでは、北海道大学および大阪経済大学の講師や参加者とともに、DXを楽しむ工夫や課題について熱心な議論が交わされ、会場は終始活気にあふれていました。

今後も本学では、生成AIの活用をはじめとしたデジタル・キャンパス化の推進に積極的に取り組んでまいります。



発表する三林室員

発表概要

- (1) 大学紹介・自己紹介、DX推進体制、Copilot導入の変遷
- (2) 就職活動支援システムの紹介
- (3) AIとの距離を縮める

当日のアジェンダ



パネルディスカッションの様子



集合写真

北海道新聞に全面広告 「疑え。世界を、ひっくり返せ。」を掲載

令和7年12月20日(土)、北海道新聞(朝刊)に室蘭工業大学の全面広告を掲載しました。

今回は「疑え。世界を、ひっくり返せ。」というテーマで、松田瑞史学長のメッセージ掲載に加え、「「なぜ？」という情熱で、壁を破る研究者たち。」と題し、各コースの教員7名から自身の研究内容をもとに、「世界を、ひっくり返す」ためのコンセプトを打ち出していただきました。



常識を疑え。不可能を疑え。そして、自分の限界を疑え。



真なる探究心から
未来の価値づくりを。

室蘭工業大学 学長
松田 瑞史
Ryusuke Matsuda

松田 瑞史 学長

「なぜ？」と口にした回数だけ、発見の可能性は広がり、小さな「なぜ？」が、時代を動かす原動力になる。既成のルールや常識をそのまま受け入れるだけでは、世界は変わらない。誰かが疑った瞬間に、科学は前へ進む。

教室で学び、研究室で議論し、実験のプロセスの中で疑う力を磨いていく。学生と教員が研究者として肩を並べ、試行錯誤を繰り返すその先に、まだ誰も知らない未来の光が見え始める。

室蘭工業大学は、工学と理学の学びを通して、さまざまな現象のしくみを解き明かし、社会を動かす知の創造をめざす、真なる探究心のフィールドである。大切にしているのは、新しい問いを生み出すという姿勢。疑う勇気が挑む力を生み、挑む力が未来を動かす。だから、わたしたちは今日も疑うことをやめない。

常識を疑え。不可能を疑え。そして、自分の限界を疑え。まだ、ここにはない価値で世界をひっくり返す、その瞬間のために。

「なぜ？」という情熱で、壁を破る研究者たち。



防災の限界を
超える。

システム理化学科
数理情報システムコース 准教授
泉 佑太



物質で未来を
変える。

システム理化学科
物理物質システムコース 教授
小野 頌太



猛暑を快適に
制する。

創造工学科
建築土木工学コース 准教授
栗原 浩平



エネルギー創造の
常識を覆す。

創造工学科
電気電子工学コース 准教授
佐藤 孝洋



衝撃をなかった
ことにする。

創造工学科
機械ロボット工学コース 准教授
立山 耕平



炎の消し方を
革新する。

創造工学科
航空宇宙工学コース 教授
廣田 光智



微生物で地球を
救う。

システム理化学科
化学生物システムコース 准教授
矢島 由佳

令和7年度 電気・情報関係学会北海道支部連合大会において若手優秀論文発表賞を本学学生が受賞

令和7年11月2日(日)と3日(月)に、室蘭工業大学にて開催の令和7年度 電気・情報関係学会北海道支部連合大会における発表で、本学大学院情報電子工学系専攻電気電子工学コースの藤田優音さんが「若手優秀論文発表賞」を受賞しました。

本大会は、電気学会、電子情報通信学会、電気設備学会、映像情報メディア学会、照明学会の各北海道支部、およびIEEE Sapporo Sectionの6団体の共催により開催され、電気・情報技術の研究者・技術者が一堂に会して、幅広いトピックに関して議論する場となっています。本賞は、発表内容が高いレベルにある優秀な講演を行った学生を表彰するもので、高压技術を用いた熱電材料の開発手法が高く評価されての受賞です。

【受賞内容】

藤田優音

(大学院情報電子工学系専攻電気電子工学コース2年：関根研究室)

令和7年度 電気・情報関係学会北海道支部連合大会
若手優秀論文発表賞

「スキッテルダイト系熱電材料 $\text{Sn}_x\text{Co}_4\text{Sb}_{12-y}\text{Tey}$ の高压合成と熱電特性」2025年11月2日（共同研究者：関根ちひろ）



若手優秀論文発表賞を受賞した 藤田優音さん

【参考URL】

<https://www.ieice.org/hokkaido/shibukai2025/program/program.html>

熱電材料は熱エネルギーと電気エネルギーを直接変換可能な材料であり、熱電材料を利用した熱電発電は、温度差を与えるだけで発電可能であるため、未利用の熱エネルギーを有効活用することができ、エネルギー問題解決への貢献が期待されています。次世代の熱電材料としてスキッテルダイト化合物 CoSb_3 が注目されていますが、熱伝導率が高いという欠点があります。本研究では、 CoSb_3 のSbサイトのTe置換とSn充填を同時に行った試料を高压合成法によって作製することに成功し、熱伝導率が大きく低減することを見出しました。本研究で開発した手法は、スキッテルダイト系熱電材料の性能の向上に有効であることを示しており、今後の高性能熱電材料開発に貢献できるものと期待されます。

【受賞コメント】

この度は、令和7年度 電気・情報関係学会北海道支部連合大会 若手優秀論文発表賞という栄誉ある賞を賜り、誠に嬉しく思います。大変光栄に思うとともに、身の引き締まる思いです。本研究は、日頃よりご指導いただいている関根ちひろ教授をはじめ、共に議論を重ねてきた研究室のメンバー、ならびにこれまで研究室を支えてこられた卒業生の先輩方のご助力あつての成果であり、心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も研究活動に一層精進してまいります。



表彰状

GOOD ACTION シェアリング2025を開催

令和7年12月11日(木)、12(金)の2日間に渡って、本学デジタル・キャンパス推進室が主催する「GOOD ACTION シェアリング2025」が、本部棟3階大会議室とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。

本イベントは、職員が取り組んだGOOD ACTION(新しい取組み・業務工夫)について、その内容を職員間で共有し、称え合うことで、職員のモチベーションを高め、GOOD ACTIONが自発的・持続的に行われるマインド(心の持ち方)を醸成すること、また、他大学の職員との交流を通じて今後の業務改善に関する情報共有と大学間連携を推進することを目的としています。

第3回目となる今回は、道内6大学の計12グループ(17名)が発表を行い、会場には約40名(登壇者含む)が集まり、オンラインでは約250名(会場出席者含む)が視聴しました。

まず初めに、司会から本イベントの趣旨説明が行われ、初日に7グループ、2日目にはさらに5グループの発表が行われました。また、今年度は発表の合間にフリートークの時間を設けるなど司会を中心に非常に和やかなムードで実施されました。

初日の発表終了後には室工大カフェ「TENTO」で懇親会も開催され、多くの方が参加し交流するなど、有意義な時間となりました。

「GOOD ACTIONシェアリング」は来年度以降も継続して開催される予定であり、本イベントを通じて職員のモチベーション向上と他大学の職員との情報共有を行ってまいります。

【発表タイトル】

- ① 【STOP!前例踏襲～デジタル弱者の業務改善奮闘記～】
室蘭工業大学
- ② 【謝金業務(業務条件及び留意事項の説明等)のDX化】
北海道教育大学
- ③ 【北見工大DX連携チームの取り組みについて】
北見工業大学
- ④ 【PowerAppsで業務改善 ～研究申請フローと出張アプリ～】 札幌医科大学
- ⑤ 【Copilotエージェントで仕様書を作ってみた】
室蘭工業大学
- ⑥ 【Lime Surveyのすすめ～広がる活用の可能性～】
小樽商科大学
- ⑦ 【利用しやすいExcelデータ final】 室蘭工業大学
- ⑧ 【アマゾンビジネス導入のその後／就労証明書発行申請業務の電子化】 旭川医科大学
- ⑨ 【SharePointとTeamsで変えた！教職員ポータル】
札幌医科大学
- ⑩ 【教授会運営のIT化】 室蘭工業大学
- ⑪ 【「動ける固定席」から始める働き方改革】
北海道大学
- ⑫ 【デジタル・キャンパス推進アンバサダー活動を始めて】
室蘭工業大学



①本学研究推進課 練生川氏



②北海道教育大学 平間氏(左)、松村氏(右)



③北見工業大学 石橋氏



④札幌医科大学 糸井氏、原田氏（オンライン参加）



⑤本学経理課 石川氏



⑥小樽商科大学 高原氏



⑦本学IR室IR専門員 小師氏



⑧旭川医科大学 岡田氏（左）、三浦氏（右）



⑨札幌医科大学 松本氏（左）、小林氏（右）



⑩本学総務広報課 芥川氏



⑪北海道大学 高崎氏（左）、関藤氏（右）



⑫本学経営企画課 神田氏



司会進行の様子



会場の様子



初日発表者の集合写真



2日目発表者の集合写真

THE学際科学ランキング2026に 道内の大学で唯一ランクイン

令和7年11月20日(木) タイムズ・ハイヤー・エデュケーション (Times Higher Education) が学際科学ランキング2026を発表し、室蘭工業大学は801+位にランクインしました。国内から全33大学がランクインしており、北海道内では唯一のランクインとなっております。
<https://www.timeshighereducation.com/interdisciplinary-science-rankings>

学際科学ランキングは、大学内での「学際的研究の促進」に重点を置いているランキングで、「Inputs (研究収入等)」「Process (研究の課程)」「Outputs (論文や

出版物の数等)」の3つの分野からランク付けされます。本学は、「Inputs (研究収入等)」の分野で高く評価されています。

学際的とは、研究や事業が複数の学問分野にまたがることを指し、異なる学問分野の知識や手法を組み合わせることで、より総合的な理解や解決策を得ることです。

室蘭工業大学は『真なる探究心から未来の価値づくりを。』をキャッチコピーとして、延べ40,000人余の同窓生の活躍を実績として教育改革を進め、地域にそして世界に貢献できる理工系学生の育成に邁進します。

**Interdisciplinary Science
Rankings 2026**

Powered by 

In association with



**SCHMIDT
SCIENCE FELLOWS**

泉 佑太准教授が北海道科学技術奨励賞を受賞

令和7年12月25日に令和7年度北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞が発表され、本学の[泉 佑太](#)准教授が北海道科学技術奨励賞を受賞しました。

北海道科学技術奨励賞は、北海道を主な拠点として、本道の発展に寄与することが期待される科学技術上の発明、研究を行い、今後の活躍が期待される45歳未満の若手研究者に、知事表彰として贈られるものです。

【北海道科学技術奨励賞】

泉 佑太（大学院工学研究科 准教授）

「土砂災害対策と社会インフラ維持管理に資する先端リモートセンシング技術の開発と実装」

[北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞について](#)
(北海道HP)

なお、贈呈式は、令和8年2月に札幌市内で開催される予定です。

MONOづくりみらい共創機構「プレ共同研究」（5回目）の採択

令和 7 年度MONOづくりみらい共創機構プレ共同研究（5 回目）公募の結果、次のとおり採択されました。
本事業は、本学教員と民間機関等との研究者が、次年度以降において民間機関等との共同研究へ発展させるための前段階に相当する共同研究に対して助成を行うものです。

研究代表者・職・氏名	民間企業等	採択金額（千円）
もの領域 准教授 大 鎌 広	(株) クレスコ・ネクシオ	497
合 計（1 件）		497

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金 額(千円)
もの創造系領域 准教授 佐 藤 孝 洋	中 小 企 業	780
もの創造系領域 准教授 佐 藤 孝 洋	大 企 業	2,500
もの創造系領域 准教授 中 田 大 将	中 小 企 業	1,420
もの創造系領域 准教授 中 田 大 将	大 企 業	4,940
もの創造系領域 助 教 荘 司 成 熙	大 企 業	1,100
合 計 (5 件)		10,740

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金 額(千円)
しくみ解明系領域 教 授 山 中 真 也	そ の 他	2,145
合 計 (1 件)		2,145

奨学寄附金の受入れ

寄 附 者	目 的	金 額(千円)
I-PEX株式会社	工 学 教 育 助 成	250
精電舎電子工業株式会社	工 学 教 育 助 成	500
株式会社テツゲン	工 学 教 育 助 成	150
スチールプランテック株式会社	工 学 研 究 助 成	500
公益財団法人鉄鋼環境基金	工 学 研 究 助 成	1,500
株式会社ドーコン	工 学 研 究 助 成	1,000
株式会社日進製作所	工 学 教 育 助 成	300
株式会社サンリツ	工 学 教 育 助 成	300
三菱製鋼株式会社	工 学 教 育 助 成	100
株式会社Alumnote	工学教育助成（Giving Campaign2025に伴う寄付）	1,726
合 計（10件）		6,326

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和 7 年12月31日	〈辞 職〉	小 野 真 嗣	大学院工学研究科准教授 (ひと文化系領域) 兼務：国際交流センター
令和 7 年12月31日	〈辞 職〉	HOQ MOHAMMAD JOBAYER	大学院工学研究科 博士研究員
		久 保 美 香	大学院工学研究科 事務補佐員
令和 8 年 1 月 1 日	〈採 用〉 大学院工学研究科 事務補佐員 大学院工学研究科 事務補佐員 保健管理センター 事務補佐員	加 藤 絵美子 寺 田 はる香 田 村 佳 子	
令和 8 年 1 月 1 日	〈雇用期間更新〉	遠 藤 雅 子 坂 本 志 布	大学院工学研究科 事務補佐員 総務広報課 事務補佐員

学内会議

学内各種委員会等の開催

<11月25日～12月24日>

開催日時 令和 7 年11月25日(火)

会議名 第17回役員会

開催日時 令和 7 年11月26日(水)

会議名 第18回役員会

開催日時 令和 7 年11月26日(水)

会議名 第 4 回経営協議会

開催日時 令和 7 年11月27日(木)

会議名 第 6 回大学院工学研究科博士後期課程専攻長会

開催日時 令和 7 年12月 2 日(火)

会議名 第12回企画戦略会議

開催日時 令和 7 年12月 9 日(火)

会議名 第19回役員会

開催日時 令和 7 年12月11日(木)

会議名 第20回役員会

開催日時 令和 7 年12月11日(木)

会議名 第 8 回教育研究評議会

開催日時 令和 7 年12月16日(火)

会議名 第13回企画戦略会議

開催日時 令和 7 年12月18日(木)

会議名 第 3 回教授会

開催日時 令和 7 年12月23日(火)

会議名 第21回役員会

開催日時 令和 7 年12月23日(火)

会議名 経営協議会（臨時）

学内行事

12月5日(金) 合格発表【令和8年度編入学一般入試(第2次募集)・マレーシア・ツイニング・プログラム入試】

学外行事

12月4日(木) 令和7年度第2回国立大学協会北海道地区支部会議(帯広市)
12月12日(金) 令和7年度国立大学協会理事会(東京都)

室蘭工業大学 人物図鑑

室蘭工業大学に所属する教員・職員に
専門分野、業務内容、室工大の
Good Pointなどを聞いてみました。

- ①専門・業務内容
- ②室工大のGood Point
- ③室工大で好きなspot



Part
39

特任教授 相津 佳永



- ①光工学・生体医用光学、キャリア・サポート・センター長
- ②社会・産業界からの評価が伝統的に高く、就職状況が極めて素晴らしいこと
- ③総合研究棟から一望する市街の眺め

Part
40

教授 飯森 俊文



- ①光化学、物理化学、無機化学
- ②大学を中心とした町周辺はコンビニや学校もあって生活しやすいところ。
- ③本部棟からA棟に沿って北に向かう道路を本学のメインストリートだと（勝手に）思っていますが、メインストリート上で北を向いたとき、真正面にそびえる山（鷲別岳？）の景色に癒やされます。

編集後記

◆ 2026年、午年がスタートしました。

新しい年を迎え、皆さまにとって健やかで実り多い一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

1月の北海道はまだまだ冬の厳しい寒さが続き、キャンパス内には白い景色が広がっています。学生たちは吐く息を白くしながらも、それぞれの目標に向かって歩みを進めており、その姿に新年らしい凛とした力強さを感じます。

そんな学生たちの姿に励まされるように、昨年は本学のマスコットキャラクター「ムロびょん」も大活躍の一年でした。

ぬいぐるみの発売をはじめ、地域のイベントや学内行事にもたびたび登場し、多くの方々に親しまれる存在となりました。

本学もムロびょんも、力強く発展していける一年になりますように。

2026年も、学報を通じて大学の挑戦や学生たちの成長を丁寧にお届けしてまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



(Garoon：総務広報課秘書広報係、E-mail：koho@muroran-it.ac.jp)

(総務広報課秘書広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびょん」

■編集発行

室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5008

■印刷所

株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308